Institut français du Japon・Cours à distance

LETTRE DE L'INSTITUT

n° 291 *le 17 décembre 2021* Automne 2021 Envoi n°5

Bonjour à tous !

今年も残りわずかとなり、街中ではクリスマスのイルミネーションがキラキラと輝いていますね！今回は、最後の答案返却ですが、この一年いかがでしたでしょうか？

おかげさまで「和文仏訳講座 4CTH」は、2022年冬学期で、祝！200回目を迎えます！スタートして60年以上がたちました！長年、ご受講いただきありがとうございます。来年も、引き続き皆さまのフランス語学習のお手伝いができましたら幸いです。

どうぞ良いお年をお過ごしください！

Nous vous souhaitons un joyeux Noël et une bonne année!

2022年冬学期のお申込み受付中！

冬学期の開講期間：2022年1月4日（火）～ 4月3日（日）

「アンスティチュ・フランセ東京オンラインブティック」をご利用ください。

https://tokyo.extranet-aec.com/extranet/#/

※教材の発送は年内12月22日発送まで、年始の発送は2022年1月5日以降開始します。

■ 質問サポートの提出についてのお願い

秋学期の質問サポートの締切は、2022年1月7日(金)になります。質問回数、量の制限はありませんが、課題のレベルを超えた質問、さらなる詳しい問いには、質問サポートの範囲でお答えできないことがございます。個々の疑問点を追求したい場合は、オンラインプライベートレッスンをおすすめします。リストアップした疑問点に、教師が触接に説明します。会話の練習にもつながります。ぜひ一度お試しくださいませ！

オンラインプライベートレッスン：https://www.institutfrancais.jp/tokyo/adistance/private/

■ 未提出の課題の紙版の模範解答送付希望について

秋学期の模範解答などの資料は、学習用プラットフォームMoodleで閲覧いただけます。答案未提出分の模範解答(紙版)およびニュースレターをご希望の方は、事務局までご連絡ください。

■ フランス語書籍専門店「欧明社」閉店のお知らせ

長い間、当校でもとてもお世話になっていた「欧明社本店(飯田橋駅徒歩3分)」が、2022年2月末をもって閉店することとなりました。当校内にある欧明社リヴ・ゴーシュ店は、10月31日をもってすでに閉店いたしましたが、冬学期の教科書、フランス語の本、カレンダー、手帳、ポストカード等は、本店やオンラインショップでご購入いただけますのでどうぞご利用ください。

営業日やお知らせについては欧明社のHPでご確認ください。：http://www.omeisha.com/

■ 年末年始のスケジュールについて

2021年12月24日(金)～2022年1月4日(火)：アンスティチュ・フランセ東京　冬季休館

2021年12月24日(金)～2022年1月3日(月)：通信事務局冬季休業/１月４日(火）はメール対応のみ。

2022年1月4日(火)：2022年冬学期スタート

2022年1月11日(火)：冬学期の第1回課題提出締切日

※休館中に届いた郵便物は、当校で受け取ることはできません。開館日の2022年1月5日に最寄りの郵便局より当校へ配達されます。

dam

Sébastien Jaffrédo

Ce mot français très ancien n'existe plus que dans la locution ***au grand dam de*** *quelqu'un*, signifiant « à son détriment » ou, dans l'emploi aujourd'hui le plus courant, pour exprimer le dépit :

こちらのとても古風なフランス語は、いまでは au grand dam de quelqu'un という成句の中でしか使われていません。「～に不利に」という意味ですが、現在では悔しさを表わす時に日常的に使われています。

Le concert a pris fin après moins de 20 minutes, ***au grand dam*** *du public.*
コンサートが 20 分もたたないうちに終了し、聴衆は大変失望した。

Pour mieux comprendre ce mot et son histoire, voyons si ces affirmations sont vraies ou fausses :
この単語とその歴史をより詳しく知るために、次の文が正しいかどうか見ていきましょう。

1. *Dam* est de la famille du mot anglais *damage* (« dommage ») dam は、英語の damage「損害」の語族である。	❑ vrai	❑ faux
2. *Dam* est de la famille du mot anglais *damn* (« maudit ») dam は、英語の damn「呪い」の語族である。	❑ vrai	❑ faux
3. *Dam* est de la famille du mot anglais *dam* (« barrage ») dam は、英語の dam「ダム」の語族である。	❑ vrai	❑ faux

1. *Dam* est de la famille du mot anglais *damage* (« dommage ») : vrai

Dam fait partie des mots français les plus anciennement attestés : dès 842, dans les Serments de Strasbourg, le texte considéré comme le premier jamais écrit en français. En réalité c'est une langue intermédiaire entre le français actuel et le latin : le mot *dam* y figure sous la forme *damno*, issue du latin *damnum*, terme de droit signifiant « perte, préjudice ». *Dam* a donné naissance à un dérivé, *damage*, qui est passé au Moyen Âge en anglais, où il a conservé cette forme, tandis qu'en français il s'est transformé en *domage* puis *dommage*, qui a remplacé l'ancien *dam*. C'est un des nombreux cas où l'anglais témoigne d'une forme d'ancien français.

2. *Dam* est de la famille du mot anglais *damn* (« maudit ») : vrai

Le latin *damnus* a donné deux verbes français : *condamner*, « déclarer coupable » en droit, et *damner*, son équivalent pour un jugement divin : la *damnation* est la pire punition du chrétien, le ticket pour l'enfer. Le juron anglais *damn!* (ou *damned!*) est donc un puissant moyen de malédiction !

3. *Dam* est de la famille du mot anglais *dam* (« barrage ») : faux

Ce mot anglais est d'origine germanique et se retrouve dans de nombreux toponymes néerlandais : *Amsterdam* (« barrage de la rivière Amstel »), *Rotterdam* (de la rivière Rotte) ou même *Edam*, célèbre pour son fromage, dont le nom signifie « barrière sur la rivière E » (un nom de rivière très bref, donc !)

1、正しい

dam は、842 年のフランス語最古の文書とされている「ストラスブールの誓い」の中で既に用いられていた、最も古い単語の一つです。これは実は、現代フランス語とラテン語の間をとったような言葉でもあります。dam は、この文書の中では damno という形で記載されています。こちらはラテン語の damnum に由来し、「損失、不利益」を意味します。

dam はある派生語を生み出しました。それが damage です。中世に英語として移りわたり、このままの形で使われています。一方でフランス語では、domage となり、dommage へと変わっていき、これがかつての dam の代わりとなりました。英語が昔風のフランス語を表わしている、数ある事例のうちの一つです。

2、正しい

damnus というラテン語は、2 つのフランス語の動詞をもたらしました。法律上での condamner「有罪を宣告する」と、宗教上での、神による裁きに等しい damner です。damnation(地獄の刑)は、キリスト教徒にとって最もひどい刑です。つまり英語の damn! (あるいは damned!) という罵り文句は、呪いを表わす強烈な表現なのです！

3、間違い

英語の dam はゲルマンから由来し、オランダの多くの地名で見受けられます。アムステルダム(アムステル川の堤防)やロッテルダム(ロッテ川の堤防)、それとチーズで有名なエダム(エ川の障壁、とっても短い川の名前ですよね！)などです。

En complément, une vidéo de *Merci professeur !* sur le même sujet :
補足として、こちらの動画でも同じテーマを扱っています。
https://youtu.be/k_mtR2mMQEs

Inspiré de l'ouvrage ***200 drôles d'expressions que l'on utilise tous les jours sans vraiment les connaître***, sous la direction d'Alain Rey, éditions *Le Robert,* 2015.